

2

風水害発生！！
あなたはどう行動する？

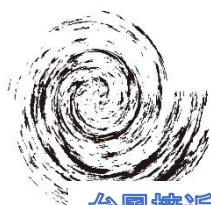
①風水害が発生したら...
11ページ

②風水害に備える
16ページ

③雷・竜巻が発生したら...
17ページ

1

風水害が発生したら...



台風接近!!

①
情報収集②
備える③
避難する

風水害は、低気圧や台風接近に伴い、事前に備えることが出来る災害です。

台風接近など大雨が予想される場合、テレビやラジオ、インターネット等により最新の気象情報をこまめに確認しましょう。また、いつでも対応できるように事前に準備をしておきましょう。

① 情報収集

情報の入手先一覧は25ページ

防災気象情報・避難情報と避難行動の確認

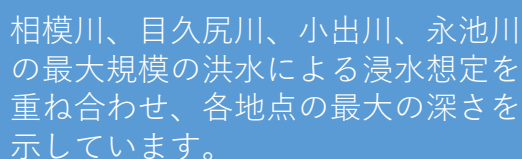
台風接近など大雨が予想される場合は、気象庁から5段階の警戒レベルを明記した防災気象情報が発表されます。町からも状況に応じて「高齢者等避難」「避難指示」が発令されます。

これらの情報を把握し、自らが避難の行動をとることが必要です。

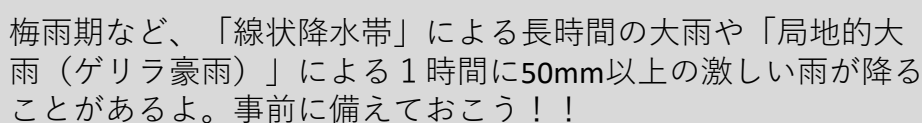
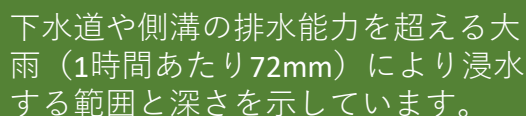
	[警戒レベル]	[防災気象情報]	[避難情報]	[町民のとりべき行動]
高	警戒レベル5 【災害発生又は切迫】	・大雨特別警報 ・決壊、越水発生 (現場からの情報)	緊急安全確保	命の危険 直ちに安全確保 何らかの災害がすでに発生している可能性が極めて高い状況となっています。命の危険が迫っているため直ちに身の安全を確保してください。
	警戒レベル4 【災害のおそれ高い】	・大雨警報(浸水害)の危険度分布の「非常に危険」	避難指示	危険な場所から全員避難 災害が想定されている区域では、町からの避難指示の発令に留意するとともに、避難指示が発令されていなくても、防災気象情報などを用いて自ら避難の判断をしてください。
	警戒レベル3 【災害のおそれあり】	・大雨警報 ・洪水警報 ・大雨警報(浸水害)の危険度分布の「警戒」	高齢者等避難	危険な場所から高齢者などは避難 災害が想定されている区域では、町からの高齢者等避難の発令に留意するとともに、高齢者など以外の方も防災気象情報などを用いて避難の準備をしたり自ら避難の判断をしてください。
	警戒レベル2 【気象状況悪化】	・大雨警報(浸水害)の危険度分布の「注意」 ・大雨注意報 ・洪水注意報	—	自らの避難行動を確認 ハザードマップなどにより、災害が想定されている区域や避難先、避難経路を確認してください。
低	警戒レベル1 【今後気象状況悪化のおそれ】	・早期注意情報(警報級の可能性)	—	災害への心構えを高める 最新の防災気象情報などに留意するなど、災害への心構えを高めてください。

浸水リスクの確認

寒川町洪水ハザードマップ



寒川町内水ハザードマップ



マイ・タイムラインの作成

第2章

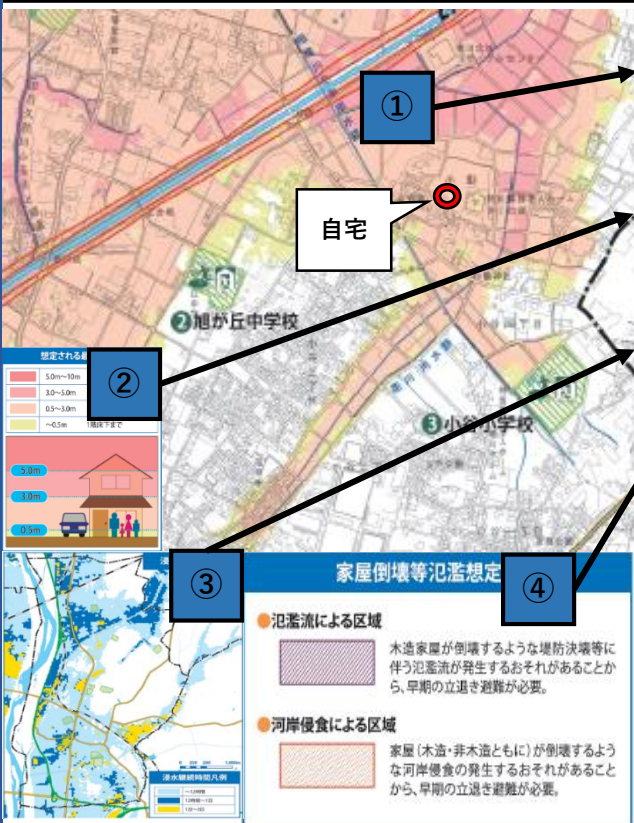
風水害発生!! あなたはどう行動する?

マイ・タイムラインは、災害の発生を想定し、自分自身や家族がとるべき防災行動を時系列で整理するもので、町民一人ひとりの防災行動計画のことです。

大雨や台風の接近・上陸に伴う洪水を想定し、自分自身や家族が逃げるタイミングを、あらかじめ整理して決めておき、いざというときに、命を守るための的確な行動が取れるようにしましょう。

作成手順【STEP1～STEP6】

STEP 1



【STEP 1 浸水想定等記入】

①洪水ハザードマップ（地図面）を参考に、自宅の場所を確認し、地図に記載しましょう。

②自宅の場所が浸水のおそれがある区域かどうか確認し、浸水深を記載しましょう。

③自宅の浸水継続時間を確認し、浸水継続時間を記載しましょう。

④凡例を基に、自宅の場所が家屋倒壊等氾濫想定区域かどうか確認し、該当箇所にチェックを入れましょう。

浸水深	0.5～3.0 m
浸水継続時間	～12時間
家屋倒壊等氾濫想定区域にある	☐ 「河岸浸食」の区域内にある ☐ 「氾濫流」の区域内にある ☒ 区域からはずれている

STEP 2



【STEP 2 広域避難場所記入】

①近場に親戚や知人宅等、安全が確保できる場所があれば確認しましょう。

②近場の広域避難場所を確認しましょう。

避難できる場所にチェックを記入	避難する場所の名前	家族が避難できる所要時間	避難経路上の危険な場所
■浸水域外の避難所	*****	**分	*****
■親戚・知人宅	*****	**分	*****
□近くの頑丈な建物	—	—	—

STEP 3

・家族構成等を記入しましょう。

名前	連絡先	日中の居場所	必需品	避難が困難な状況があれば記入して下さい
①	②	③	④	⑤

【STEP 3 家族構成等記入】

【記載要領】

①家族の名前を記入ください。

②日中に繋がる連絡先を記入ください。

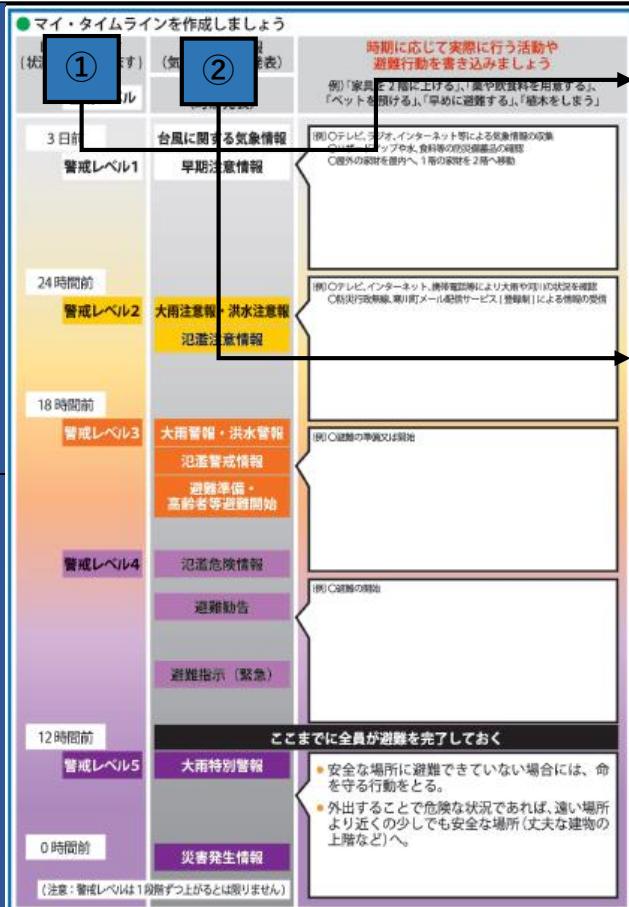
③日中に滞在していると思われる場所を記入ください。

④薬など避難する際に持っていきべき必需品を記入ください。

⑤子供や高齢者の方、障がいをお持ちの方などが避難する際に必要なもの（支援など）を記入ください。

STEP 4

STEP 5



【STEP 4 警報等の内容を調査】

①警戒レベルと時間のめやす

警報等の内容を調べて、どんな行動を取るのかを確認しましょう。

警戒レベルは1～5まであり、警戒レベル1～2は気象庁が発令し、警戒レベル3～5は町が防災気象情報を含む様々な情報を踏まえて発令します。

※令和3年5月20日から避難勧告が廃止され、避難指示に一本化されました。

②防災気象情報(気象庁・県が発表)/避難情報(町が発表)

雨や河川の状況、町からの避難に関する情報などの取得方法を確認しましょう。

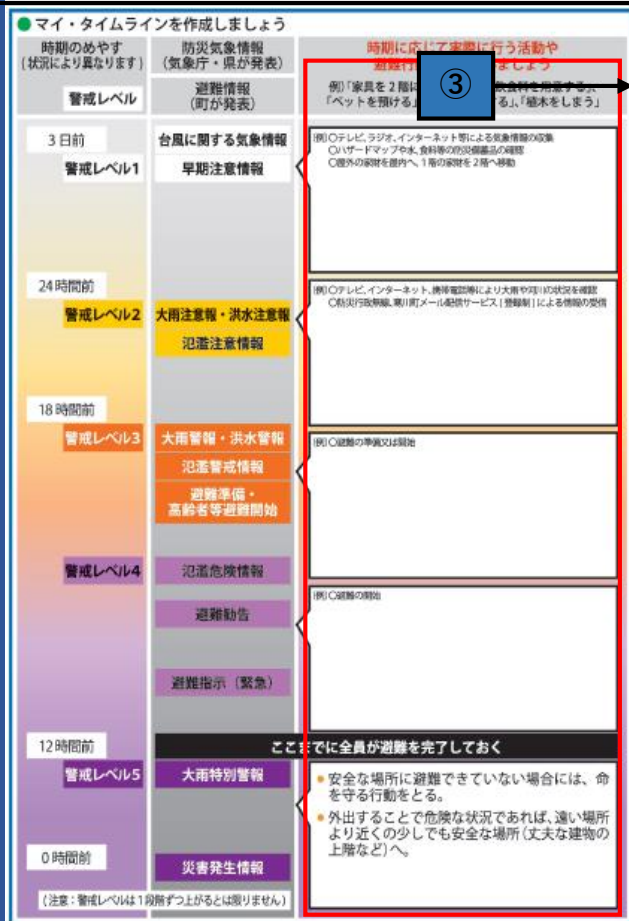
【STEP 5 災害発生前後の情報収集】

雨や河川の状況、町からの避難に関する情報などの取得方法を確認しましょう。

町では、防災行政用無線のほか、登録制メールへの配信、HPやTwitterへの掲載等を行い、多様な情報伝達手段を確保しております。

また、令和3年6月14日より防災LINE公式アカウントが配信されます。その中で、防災関連情報等(気象・河川の状況)が取得できますので、併せて、ご確認ください。

STEP 6



【STEP 6 災害時避難行動記入】

③STEP 4・5で調べた情報を基に、いつ、何をするのか、避難のタイミングを考えてマイタイムラインを作成しましょう。

さむかわマイ・タイムライン「行動」リストを活用し、時期に応じた活動や避難行動を記入しましょう。「行動」リストには避難する際の目安の行動などが書かれています。はさみなどで切り取り、マイ・タイムラインに貼り付けて活用しましょう。※リストを使わず、表に直接書き込んでいただいてもかまいません。

記入時の注意点として、警戒レベル3が発令された場合、高齢者等は避難を開始し、その他以外の人も状況に応じて避難の準備をしたり、避難を開始しましょう。

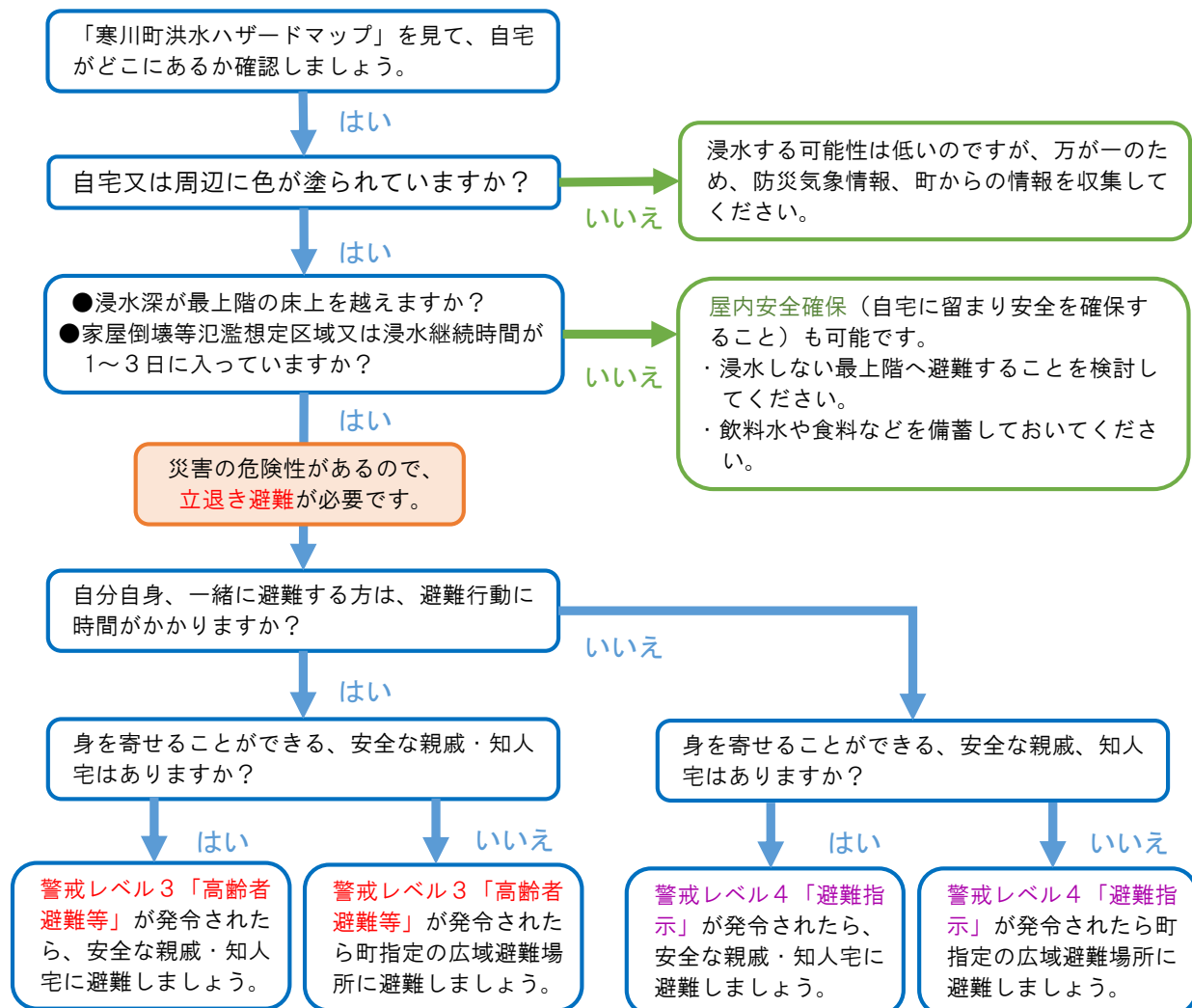
また、レベル4が発令された場合は全員避難を開始しましょう。完成しましたら、いつでも確認できるところに貼っておきましょう。

さむかわマイ・タイムライン 「行動」 リスト	
このリストは、マイ・タイムラインをまとめる際の参考行動例を示したものです。状況に応じてマイ・タイムラインに記入してください。ご活用ください。	
防災気象情報	時期に応じた活動や避難行動
警戒レベル1	- 避難行動を確認する - 避難行動を確認する - 避難行動を確認する
警戒レベル2	- 避難行動を確認する - 避難行動を確認する - 避難行動を確認する
警戒レベル3	- 避難行動を確認する - 避難行動を確認する - 避難行動を確認する
警戒レベル4	- 避難行動を確認する - 避難行動を確認する - 避難行動を確認する
警戒レベル5	- 避難行動を確認する - 避難行動を確認する - 避難行動を確認する

③避難する

風水害時の行動フロー

風水害時の避難行動を確認しておきましょう。



■避難場所

災害発生に際し、町指定の広域避難場所に行くことだけが避難ではありません。
避難には、次の4つの避難場所があります。
ふだんから、どこに避難するのか決めておきましょう。



2

風水害に備える

風水害は、低気圧や台風接近に伴い、事前に備えることができる災害です。いつでも対応できるように事前に準備をしておきましょう。

自宅、周辺の確認と準備

- ☐ 屋根のアンテナはしっかり固定する。
- ☐ 雨戸を閉める。ガラス窓を板やガムテープでふさぐ。
- ☐ 飛ばされやすい鉢植え、物干しざお、自転車などは、屋内へ移動又は固定する。
プロパンガスのボンベは固定する。
- ☐ ブロック塀や外壁のひび割れや亀裂は補強する。
- ☐ 側溝や排水溝のごみ、土砂は除去し、水の流れをスムーズにしておく。
- ☐ 浸水を防ぐため「止水板」「簡易水のう」を準備する。

非常持出品の準備など

- ☐ 非常持出品の準備
 - ・貴重品、生活必需品などを準備する。
⇒「19ページ 非常持出品を備えよう!!」参照
- ☐ 家財道具の移動
 - ・浸水が心配される場合は、家財道具や貴重品、生活用品、食料などを高い場所へ移動させておく。

情報収集先の確認

防災気象情報、避難情報などの入手先を確認しておきましょう。
⇒「25ページ 情報入手先一覧」参照

町の補助制度

町には、風水害対策について、次の補助制度があります。補助の条件など、詳細については町民安全課に相談してください。

浸水防止施設設置補助金制度

浸水による住宅の被害を軽減するため、戸建て住宅、集合住宅への浸水防止施設（止水板など）の設置に対して、その費用の一部を補助します。

3

雷・竜巻が発生したら...

雷や竜巻は短時間で大きな被害をもたらします。雷注意報や竜巻注意情報などの防災気象情報に注意し、自らの安全を確保できるようにしましょう。

雷・竜巻から身を守るために

雷や竜巻の兆しがあるときは、すみやかに安全を確保しましょう。



雷

◎屋外に居る場合

- ・頑丈な建物や、車の中に避難する
- ・高い物体（木や電柱など）から4メートル以上離れる
- ・姿勢を低くする
- ・持ち物を体より高く持ち上げない

◎屋内に居る場合

- ・電気器具や、天井・壁などから1メートル以上離れる
- ・電気器具のコンセントを抜く
- ・入浴や調理をしない（雷が水道管などを伝う可能性があるため）



竜巻

◎屋外に居る場合

- ・頑丈な建物に避難する（物置や車庫、プレハブなどは危険）
- ・電柱や木から離れる（倒壊の危険）

◎屋内に居る場合

- ・窓やカーテンを閉める
- ・家の一階の窓から離れた場所に移動する
- ・机の下に入るなど、身を小さくして頭を守る